

カウントのしかた -1

「カウントしなさい」と言われても、どういうことかわからなかったり、音を弾くことで精一杯だったりすることは少ないことではありません。
また、容易にカウントできるようになる人もいますが、体得するのに時間のかかる人もいます。カウントのための器具メトロノームを使うことは悪いことではありませんが、メトロノームのカウントは、音楽全体にあてはめられることではありません。
時間がかかっても、器具にたよらないでカウントできるようになりましょう。

2 拍子

拍子は楽曲演奏の“大前提”になる事柄の一つです。“大前提”なので音符の前に書かれてあり、音符はその約束にそって弾かなければなりません。
その約束事のもっとも重要なことは、「拍には“強拍（重い拍）と弱拍（軽い拍）”がある」ということです。



2拍子は、強拍と弱拍が交互にくり返される拍子です。
譜例には強拍を意識するために1拍目にアクセント記号を付けてありますが、アクセントほど強くはありません。

- ギターでも机でも、自分の身体でもかまいません。
符尾（棒）が上にのびている音符（上声）を見ながら、可能なかぎり規則的に（！）叩き、それに合わせて手短かに拍を数えましょう。
1拍目を少し強めに叩き、それに合わせて「イチッ」をわずかに強く発音します。
叩いている手と数えている言葉が一致している実感が得られるまでくり返します。

* テンポは、遅すぎても早すぎても難しさが強まります。
中庸な感じ（！）をさがしてください。

- 自分で「慣れてきたかな～」と感想できたら、叩いている感覚をなくさないように注意しながら、下声部の音（2弦の開放弦）を弾いて下さい。
そのとき、2小節分くらい数えることを先行させて下さい。
また、数えている言葉と音が“くいちがった”感じがしたら、また数えるところからやり直します。



* 4分音符でカウントできた段階で、8分音符の練習に移行して下さい。
要領は4分音符と同じですが、拍ウラ（「トッ」のところ）は決して強く感じないで下さい。